

(新)

第8章 健康危機管理体制

第3節 新興感染症を含む感染症

3 新興感染症以外の感染症

(2) 肝炎

現状・課題

B型、C型慢性肝炎は、気づかぬうちに進行し、肝硬変や肝がんに移行する恐れがあります。感染時期が明確でないことや自覚症状がないことが多いため、肝炎検査を受ける機会がなく、感染自体に気づいていない、あるいは感染を知っているが受診していない患者が県内にも一定数いることが問題となっています。

県民が肝炎検査を受け、早期に必要な治療に結びつくよう、保健所等では無料のウイルス肝炎検査を実施し、重症化予防を推進しています。また、医療提供体制として、肝疾患診療連携拠点病院（高知大学医学部附属病院）及び肝疾患専門医療機関（72施設）を整備しています。

(図表 8-3-10) 肝疾患専門医療機関数（保健医療圏別） 令和5年6月30日現在

保健医療圏	安芸	中央	高幡	幡多	県計
肝疾患専門医療機関	9	50	5	8	72

対策

県は、検査、治療、普及啓発に係る総合的な肝炎対策を推進することとしています。県民が一度はウイルス肝炎検査を受け、陽性と判明したにも関わらず専門医療機関を受診していない場合には、初回の精密検査費用を助成するなど、受検、受診、早期受療に取り組めます。

現在、ウイルス性肝炎治療は確立されており、B型肝炎では内服薬でウイルスを抑えることが可能となっています。またC型肝炎では数ヶ月の服薬でウイルスを排除することができるようになっており、いずれの場合も医療費助成を行っています。

これらのウイルス肝炎に関する正しい知識や制度の普及等のため、肝炎医療コーディネーター養成を行っています。

(旧)

第8章 健康危機管理体制

第3節 感染症

2 感染症に対する取組及び医療提供体制などの状況

現状

(4) 肝炎

県内には、数千人のウイルス性肝炎の感染者がいると考えられますが、これらの者は感染したことを自覚していないことが多く、気づかぬうちに慢性肝炎から肝硬変や肝がんに移行するなど、適切な時期に治療を受ける機会がない感染者が多く存在することが問題となっています。

感染者ができるだけ早く検査を受け、治療に結びつくよう、県は検査・治療・普及啓発に係る総合的な肝炎対策を推進することとしています。

また、検査及び治療が適切に行えるよう、肝疾患診療連携拠点病院（高知大学医学部附属病院）及び肝疾患専門医療機関（67施設）を整備しています。

(図表 8-3-11) 肝疾患専門医療機関数（保健医療圏別） 令和3年4月1日現在

保健医療圏	安芸	中央	高幡	幡多	県計
肝疾患専門医療機関(平成29年)	10	47	4	6	67
肝疾患専門医療機関(令和3年)	9	51	5	7	72

課題

4 肝炎

肝炎対策は、県民に一度はウイルス性肝炎検査を受けていただき、肝がん、肝硬変など慢性肝疾患の早期発見・早期治療につなげていくことが必要ですが、陽性と判明したにもかかわらず治療につながっていない方が一定数いるため、精密検査費用の助成や陽性者のフォローアップなど、更なる肝炎対策が必要です。

目標

2 新興感染症以外

区分	項目	直近値	目標値	直近値の出典
0	肝炎ウイルス陽性者の 精密検査受診率	令和4年度 77.8%	令和11年度 90%以上	地域保健健康増進事業報告 (高知県健康対策課調べ)